

第 10 回市民説明会（オープンハウス・説明会）

【実施概要】

1. 日時・場所

9月1日（金曜日）南区民センター（南区）

オープンハウス 13時00分 ～ 18時00分

説明会 18時30分 ～ 19時30分

2. 来場者数

100人程度（内訳：オープンハウス 約80人、説明会 約20人）

3. 当日の様子



4. オープンハウスでいただいた意見

〈期待の声〉

- ・オリンピックは何となく反対だったが、パネルを見て、やった方が得だと思った。税金を使わないなら、反対する理由が全くない。
- ・ボランティアや企業からの立場で運営に直接関わりたい。
- ・札幌市には招致に向けて頑張ってもらいたい。ぜひ招致してほしい。72年

- 大会の時、運営を手伝った。当時、街が大きく変わったことを覚えている。
- ・帯広出身なので、帯広で行う競技は気になるし、観に行ってみたいと思う。
 - ・周りの人は反対だが私は賛成。経済効果が期待できるならやってほしい。
 - ・1972年大会で笠谷選手の記録員をやっていた。お金を使えば、それを超えるリターンが入ってくる。活性化のためにやってほしい。絶対にやるべき。
 - ・感動するからぜひやってほしい。
 - ・オリパラを生きているうちに観たい。感動すると思う。招致賛成。
 - ・ぜひ開催してほしいと思っている。
 - ・もっと大々的に、大通ビアガーデンなどで招致活動の周知をするべきである。

〈不安や懸念の声〉

- ・招致自体は賛成だが、世界大会が東アジアにかたまりすぎ。30年より34～38年にして、もっと色んな地域で大会を開催してほしい。
- ・施設整備費は物価上昇を考慮しているのか。
- ・バリアフリー化はまずスポーツ施設以外で行うべき。
- ・公開討論会での佐藤のりゆき氏の意見に賛成。インバウンドだけで都市が維持できるとは思えない。
- ・悪いことをする人は許せない。その頭を別のことに使えばいいのに。
- ・これまでにかけた経費を公開すべき。
- ・札幌ドームの問題など、他にやるべきことがある。
- ・選手が国を背負う大会であるうちは賛成しない、純粋なスポーツの大会であるべき。国家間の対立を煽ることはない。
- ・もっと丁寧な説明をすべき。新聞の1面を使うとか。若い人たちにもっとアピールすべき。事実を知らない人が多すぎる。知ったら賛成する人が増えると思う。
- ・施設整備に関しては、しっかりとお金をかけるべき。一つの投資。そうすることで経済が回っていく。
- ・広告代理店に依存するのではないか。(スポンサー収入確保について) 市・道で対応できる規模を超えるイベント招致はやめるべき。
- ・ブラックボックスが改善されるはずがない。

5. 説明会でいただいた質問や意見

- ・東京大会では、ボランティアとアルバイトが同じ業務に就いていながら待遇に開きがあり、問題視されていた。2030年大会もボランティアを導入するのか。
- ・大阪万博では、東京大会における汚職で東京地検が広告代理店やゼネコンを叩いたことから調整役がいなくなり、予算を超えるコスト増が発生した。2030年大会の入札でも不調が連続するのでは。
- ・大阪万博、千歳の大規模開発、ロシアとウクライナの戦争、コロナの影響、除雪体制など、多くの社会課題がある中で2030年招致のまま突き進むことに反対。
- ・どうしてもやりたいなら、地域全体のことを考えて、スイスのように道内全域を候補地としてほしい。
- ・招致を15～20年先に延ばし、国・道の財政支援を得たうえで、市が中心となって進める方が理解を得られるのではないか。
- ・オリンピックの良い面だけでなく、アメリカの放送局による放送時間の独占やそれに合わせた競技時間やルールの変更など、悪い面も上げたうえで対策を語るべき。
- ・大会運営費について、国内スポンサー収入が800～1,000億円ということだが、本当に集まるのか。
- ・新月寒体育館の建替えに400億円、大倉山ジャンプ競技場の改修に90億円がかかるということだが、建替え・改修しなければならないのか。古い方が味わいや昔らしさの点から良いという評価になることもある。競技に差支えはないのでは。
- ・広告代理店に頼らないということだが、市役所職員がスポンサー料を集めることは不可能であるため、結局のところ依存せざるを得ない。
- ・大会で赤字が出た場合にどのように補填するのか。
- ・施設整備費について、長野スパイラルは古く、冷凍設備や電光掲示設備を作り直す必要がある。つどーむや帯広の森屋内スピードスケート場は狭く、本当に競技ができるのか。スキー場にしても、施設整備費には準備のための経費が含まれていない。
- ・大会時のスキー場の営業補償費は計上されているのか。また、仮設費につい

てはスポンサー収入が得られなければ支出ができないということか。

- ・ 50 年前に札幌 1972 大会を見に行った。あれ以来、札幌はとても発展した。市も道も招致推進の立場なのだから、積極的に進めれば良い。必ず反対派は出る。新聞も、汚職がどうだと反対意見ばかり。そんなことを言っていたら何もできない。
- ・ 原則、税金を投入しないとのことだが、投入するのではないか。予備費は必ず使うことになる。
- ・ 経済効果は、学者が何らかの算定方法を用いて出した数字を並べているだけ。東京 2020 大会後、東京都民がそんなに豊かになったのか。
- ・ ウィンタースポーツは好きだが、夏の競技と比べるとどうしても認知度が低い。ため、しっかりとスポンサー収入を得られるか疑問。
- ・ バリアフリーの促進、省エネ導入の促進、電気自動車の導入などは、世の中として進めて当たり前のこと。オリンピックがなければ進まないのか。
- ・ 1972 年大会では、北海道庁や北海道開発局の支援が大きかったと聞いている。2030 年大会の招致には、国の機関の力を借り、市民が負担する税金を少なくする方法を考えてほしい。
- ・ 市内の学校のスキー授業で使用するスキー場では、生徒が休む場所が少なく、雪が降る中で休んでいる。
- ・ 藻岩山市民スキーロッジの老朽化が進んでいる。スキー関係者から建替えを求められているので検討してほしい。
- ・ スポーツを通じて市民が元気になることで医療費削減が期待できる。
- ・ 札幌市民に役立つ招致計画を立てれば、東京 2020 大会の汚職や談合事件の不安は関係がなくなる。いつの日か、札幌市に感謝する日が訪れることを期待する。